



まさる君がゴールした時に、班長さんは「1」と書かれたはたを笑顔でふっていました。

まさる君には、「6」と書かれたはたが渡されました。

よしおは、退場するまさる君を待って、こう言いました。

「まさる君、何で負けたの？一生けんめい、応えんしたのに、何で負けたの？」

よしおは、くやしうてたまらなかつたのです。すると、まさる君は、まだ大きく肩で息をしながら、

「お兄ちゃん、走るのおおそいんだよ。毎年ピリだ。これで6回目のピリだ。」

と笑って言いました。そして、

「よしお君が応えんしてくれた声、よく聞こえたよ。ぼくは、走るのおおそいから、よく聞こえるんだ。」

と言うと、まさる君は、六年生のテントの方へ歩いて行ってしまいました。

よしおは、まさる君の後を走っておいかけました。

運動会は、午前中の競技を終えて

ひびきになっていました。

